



●「令和の大修理」竣工5周年記念事業

竣工から5年——。
よみがえった旧加悦町役場庁舎を
祝いました

令和6年11月16日、17日の2日間、旧加悦町役場庁舎（以下、旧庁舎）の「令和の大修理」竣工5周年記念行事を開催し、延べ約100人が集いました。講師の方々には工事に向けた調査研究から修理などにおいて重視した内容、調査中に苦労した点について話され、改めて旧庁舎の建設に込められた先人の思いを知る機会となりました。

●よみがえった旧庁舎

旧庁舎は昭和2年の北丹後地震（マグニチュード7.3）後、まちの復興を迅速に進めるために建て直された、木造総2階建ての建物。耐震性と耐火性を高めるため外壁を鉄網モルタル壁とし、2階の大梁は方杖で補強するなど、当時の最新技術と工法が採用されました。昭和初期の建築技術を知る上で貴重な建物で、京都府指定有形文化財に指定されています。

建築から約90年が経過した令和元年度、旧庁舎の有効活用に向け「令和の大修理」を実施。閉庁から約17年もの間、耐震性能の課題から2階を使用できない状態でしたが、現在は全室を使用することが可能となりました。

●困難を乗り越えて

文化財のため修理や耐震補強には課題が山積みでした。その壁を打破するため平成27年に予備調査、30年に耐震改修検討委員会を立ち上げて調査・実験を繰り返し、改修方法を決定し、令和2年3月に無事竣工。この間、実に多くの方々のご協力を得て文化財建造物の建築史的、意匠的、構造的、そして構造歴史的価値を損なうことなく修理を実施することができました。竣工後は全国的にも珍しい貴重な大修理を祝う落成式を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、静かなリニューアルオープンとなりました。



講演会「令和の大修理」を徹底探求の開会式の様子

●最大の特長は耐震補強

大修理では2階の旧議場の天井や窓などを復元し、建築当初の雰囲気よみがえったことも魅力の一つですが、最大の特長は耐震補強にあります。大地震後に建築されたため、当時の最新の耐震対策が施されており、この技術と工法を生かす構造解析や構造補強設計、耐震補強設計を行ない修理を実施したことが構造歴史的に非常に稀で貴重な事例と話すのは、京都大学の鈴木祥之名誉教授。「構造の専門家は通常、歴史よりも目の前の構造がどのようになっているのかに重点を置くが、初めて構造歴史的な価値に強く驚かされ、修理を行なう原動力になった」と鈴木教授は当時を振り返られました。



参加者の質問に回答する鈴木教授

●使って迎える、次の100年

旧庁舎は大勢の方々の協力を得て調査や実験、協議を繰り返してよみがえりました。京都大学の藤井義久名誉教授は「使うことがとても大事。次の100年間、使いながら適切な維持管理（点検と補修）をお願いしたい」と、保存には活用することの大切さについて話されました。1階は観光案内所として特産品などの販売、2階の旧議場は貸館を行なっています。ぜひ、多くの方々に身近な施設としてご使用いただき、旧庁舎が有効に保存・活用し続けられることを願っています。

●よさのふくし祭り

支え合いのまちづくり



各団体の紹介ブースで活動内容の説明を受ける来場者たち

11/30 与謝野町のボランティア団体などが一堂に会した「よさのふくし祭り」が野田川わーくばるで開催され、約1000人の来場者でにぎわいました。

初開催となった本イベントは、20を超える団体の活動紹介ブースのほか、キッズダンスや読み聞かせなどのステージ発表、炊き出し訓練などの防災コーナーがあり、福祉を身近に感じることができた1日となりました。

●知遊館クリスマスジャズコンサート

ジャズでクリスマスを楽しむ



クリスマスソングを中心に演奏する演奏者ら（写真中央が永野さん）

12/14 舞鶴市出身のトランペッター永野雄己さんらによる「知遊館クリスマスジャズコンサート」が開催され、約300人の来場者で会場を埋め尽くしました。

聖者の行進など、クリスマスソングをメインに演奏されたコンサート。演奏が始まると自然と手拍子が沸き起こり、演奏者と会場が一体に。来場者らはジャズの音色とともに一足早いクリスマスを楽しんでいました。

●第14回与謝野町卓球バレー大会

台を囲み親睦を深める



台を囲みピン球を打ち合う参加者たち

12/8 加悦地域公民館において「第14回与謝野町卓球バレー大会」が開催され約70人11チームが出場し、白熱した試合が繰り広げられました。

障害の有無や年齢にかかわらず誰もが楽しめる卓球バレーは、卓球台を使いネットを挟んで1チーム6人が椅子に座りピン球を打ち合うユニバーサルスポーツ。各コートでは得点が入ると大きな歓声が上がっていました。

●山田保育所・石川保育所交流保育

ぺったんぺったん、おもちつき



つきたてのおもちをこねて鏡もちを作る園児たち

12/17 令和7年4月から認定こども園に移行する山田保育所・石川保育所の交流保育の一環として「もちつき大会」が山田保育所で行なわれ、年中と年長の園児たち約50人がもちつきを体験しました。

エプロンと三角巾を身に着けた園児たちは、蒸したてのもち米を「よいしょー」のかけ声とともに子ども用のきねを振り下ろし、懸命にもちをついていました。